
本庄市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
結果報告書
(小学生)

令和6年5月
本庄市

目次

第1部 調査の概要	1
調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査対象及び調査方法	3
3. 配布数及び回収結果	3
本調査の基本的な事項	3
1. 数値の基本的な取り扱いについて	3
第2部 小学生の保護者対象調査	5
子ども・子育て支援に関するニーズ調査【小学生の保護者】	7
1. 居住地区について	7
(1) 居住地区	7
2. 本人と家庭の状況について	8
(1) 子どもの学年	8
(2) 回答者	8
(3) 配偶関係	9
(4) 子育てについての相談先の有無	9
(5) 子育てに関する相談先	10
3. 保護者の就労状況等について	11
(1) 母親の就労状況	11
(2) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	12
(3) 母親：フルタイムへの転換希望	13
(4) 母親：就労希望について	14
(5) 母親：就労希望の形態	14
(6) 母親：希望する1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	15
(7) 父親の就労状況	16
(8) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	17
(9) 父親：フルタイムへの転換希望	18
(10) 父親：就労希望について	19
(11) 父親：就労希望の形態	19
(12) 父親：希望する1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	20
4. 地域の子育て支援事業の認知状況や利用状況について	21
(1) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向	21
(2) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向	23
(3) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向	25
5. 宿泊を伴う預け先の状況について	27

(1) 泊りがけで預けることができる事業の利用意向.....	27
(2) 泊りがけで預けることができる事業の利用目的.....	28
(3) 1年間で利用したい日数.....	28
6. 子どもの病気の際の対応について.....	29
(1) 子どもの病気やケガで利用できなかったこと.....	29
(2) この1年間の対処方法.....	29
(3) この1年間の対処方法の日数.....	30
(4) 病児・病後児保育の利用意向.....	31
(5) 病児・病後児保育施設等を利用したかった日数/年.....	31
7. 放課後の過ごし方について.....	32
(1) 希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方.....	32
(2) 希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方の日数.....	33
(3) 希望する小学校高学年の放課後の過ごさせ方.....	34
(4) 希望する小学校高学年の放課後の過ごさせ方の日数.....	35
(5) 放課後児童クラブの利用を希望する理由.....	36
8. 公園の過ごし方について.....	37
(1) 公園の利用状況.....	37
(2) 公園における好きな遊びの種類.....	37
(3) 本庄市内の公園に対する満足度.....	38
(4) 不満の理由.....	39
9. 習い事等への児童の送迎について.....	40
(1) 送迎のための交通手段で困っているか.....	40
(2) デマンドバスの利用状況.....	40
(3) 習い事等の送迎のためのデマンドバスの利用意向.....	41
(4) デマンドバスを利用したいと思わない理由.....	41
10. 子ども・子育て支援全般について.....	42
(1) 市が重点的に取り組むべき子育て支援施策.....	42
(2) 地域における子育て環境や支援への満足度.....	43
(3) 自由意見.....	44

第 1 部 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「本庄市 第3期子ども・子育て支援事業計画」（計画期間：令和7年度から令和11年度まで）を策定するにあたり、本庄市の子どものふだんの生活の様子などを調べるため、また、本庄市子ども・子育て支援事業計画策定の基礎資料とするために実施した。

2. 調査対象及び調査方法

項目	子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生）
調査対象	市内在住の小学生の保護者
配布数	1,500
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送法・Web
調査時期	令和6年2月～令和6年3月
調査地域	本庄市全域

3. 配布数及び回収結果

項目	子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生）
配布数	1,500
有効回収数	871
有効回収率	58.07%

本調査の基本的な事項

1. 数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100％を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100％として算出している。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は100％を超える場合がある。

第 2 部 小学生の保護者対象調査

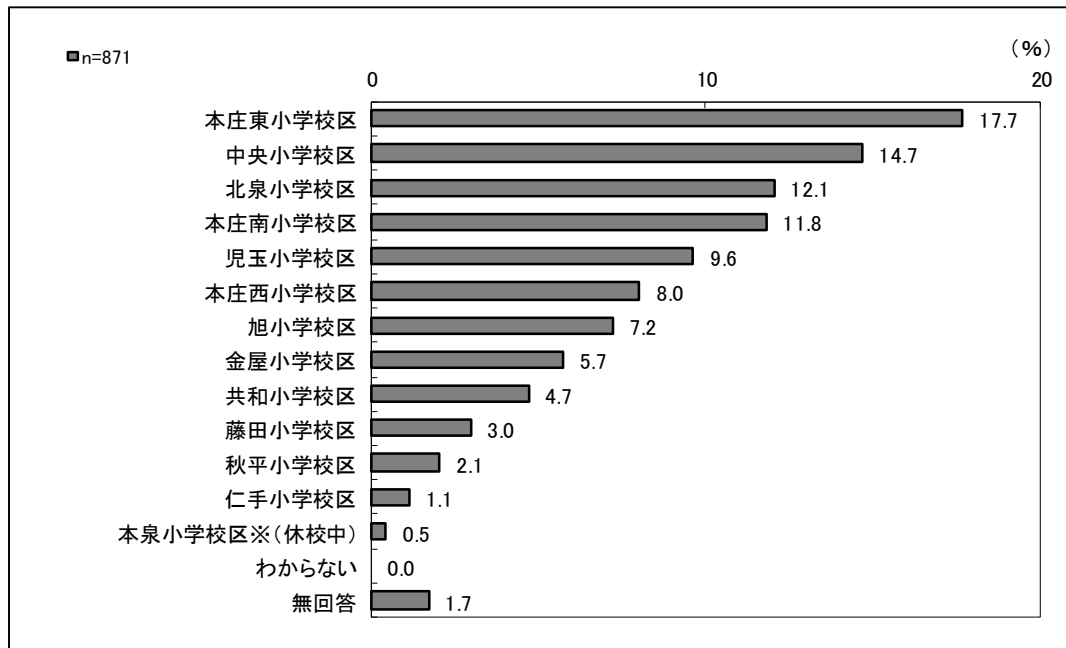
子ども・子育て支援に関するニーズ調査【小学生の保護者】

1. 居住地区について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地区はどちらですか。

■居住地区■



■居住地区（統合）■

	本庄東中学校区	本庄西中学校区	本庄南中学校区	児玉中学校区	わからない	無回答	n
(%)					0.0	1.7	
全体	21.8	15.3	38.6	22.6			871

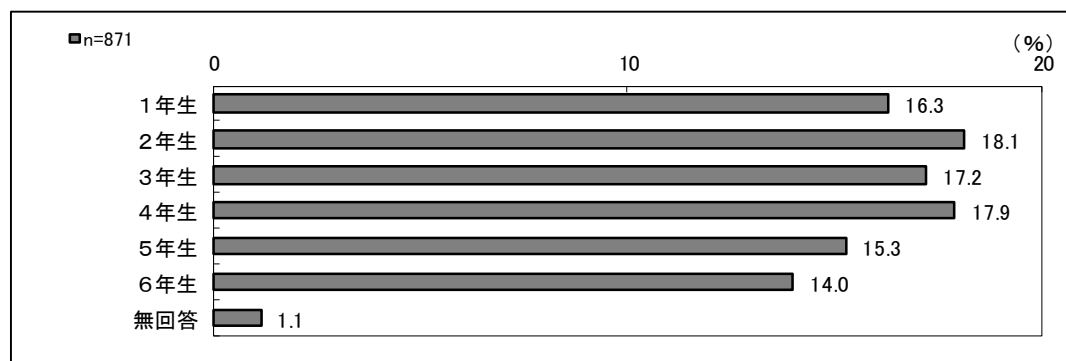
2. 本人と家庭の状況について

(1) 子どもの学年

問2 宛名のお子さんは現在何年生ですか（令和5年4月1日時点）。

「2年生」（18.1%）、「4年生」（17.9%）、「3年生」（17.2%）、「1年生」（16.3%）、「5年生」（15.3%）、「6年生」（14.0%）。

■子どもの学年■

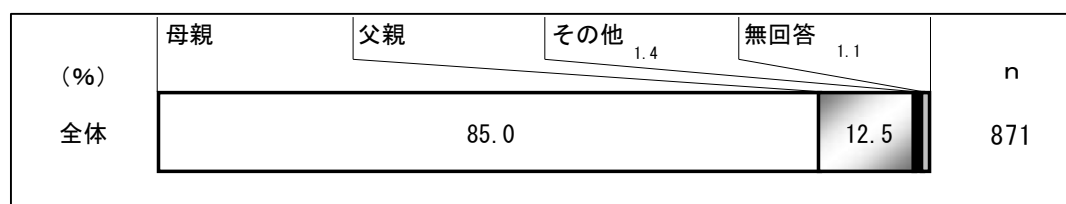


(2) 回答者

問3 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

「母親」（85.0%）、「父親」（12.5%）、「その他」（1.4%）。

■回答者■

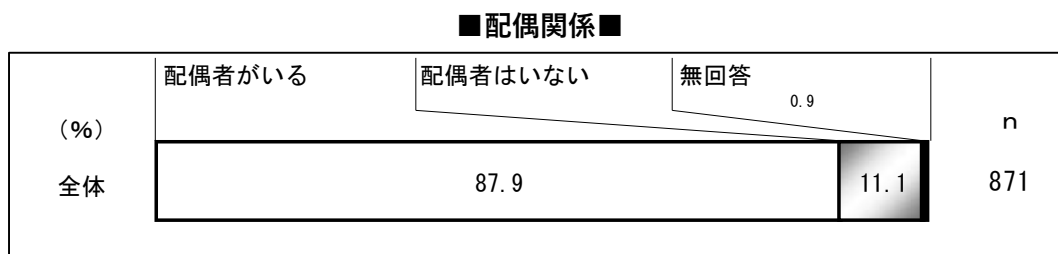


(3) 配偶関係

問4 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。



「配偶者がいる」(87.9%)、「配偶者はいない」(11.1%)。

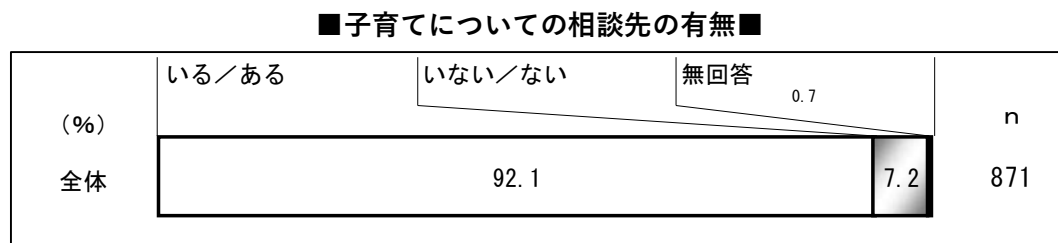


(4) 子育てについての相談先の有無

問5 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいいますか。
また、相談できる場所がありますか。



「いる／ある」(92.1%)、「いない／ない」(7.2%)。



(5) 子育てに関する相談先

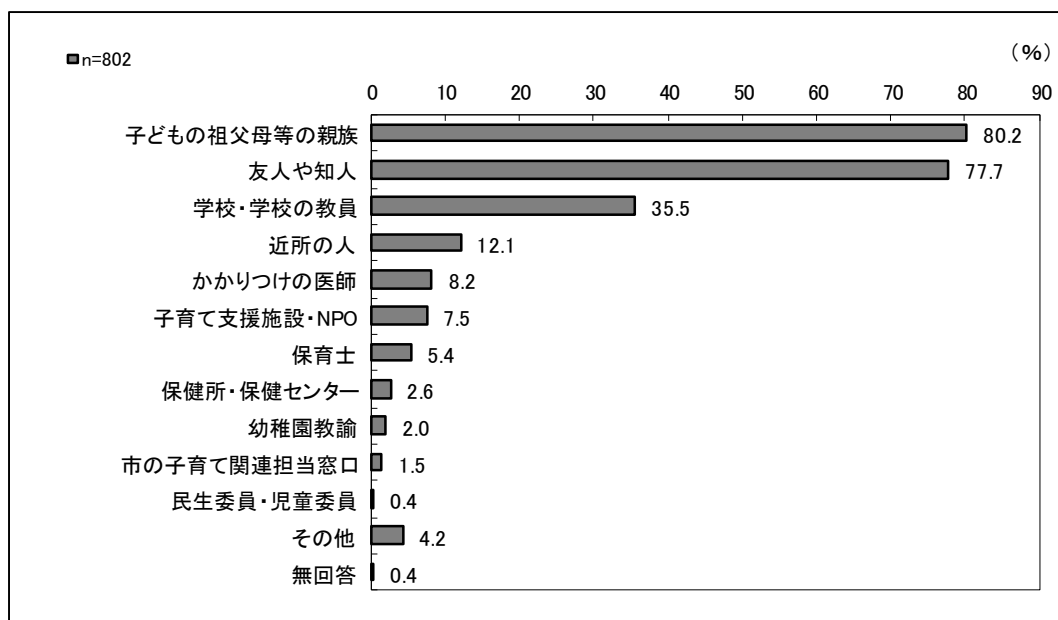
※ 問5で「1.いる／ある」に○をつけた方のみ

問 5-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。【複数回答】



「子どもの祖父母等の親族」(80.2%)、「友人や知人」(77.7%)が高い割合を占める。
「学校・学校の教員」(35.5%)、「近所の人」(12.1%)、「かかりつけの医師」(8.2%)、「子育て支援施設・NPO」(7.5%)、「保育士」(5.4%)、等がこれに続く。
身近な人を相談先とする傾向が強い。

■子育てに関する相談先■



3. 保護者の就労状況等について

(1) 母親の就労状況

※ 主に母親の状況について

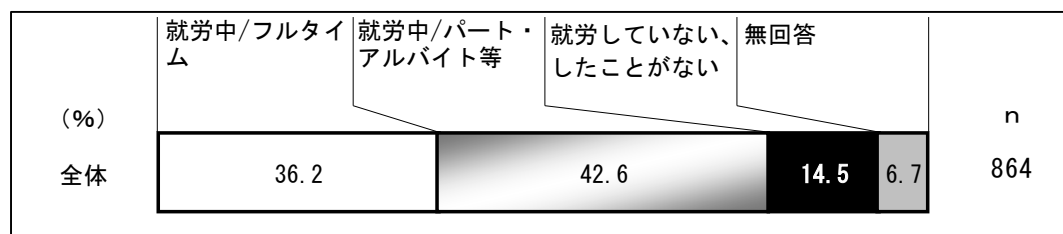
問6 宛名のお子さんの「母親」の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）についてお答えください。



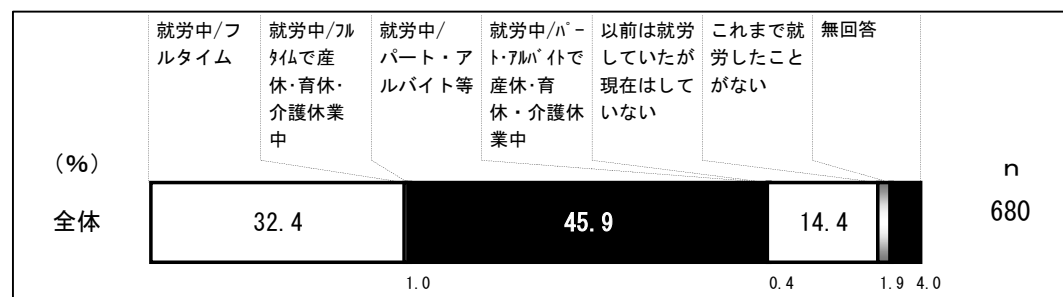
「就労中/パート・アルバイト等」(42.6%)、「就労中/フルタイム」(36.2%)、「就労していない、したことがない」(14.5%)。

前回調査と比較して、「就労中／フルタイム」の割合が 2.8 ポイント増加した一方、「就労していない、したことがない」が 1.8 ポイント減少している。

■母親の就労状況■



■（参考）前回調査の結果■



(2) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問6で「1」または「2」に○をつけた方のみ

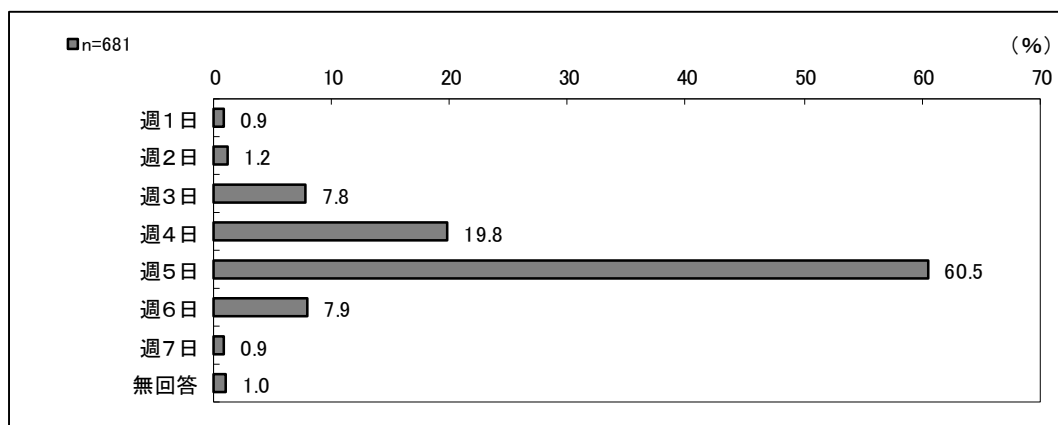
問6-1 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 母親：1週当たり就労日数
- ② 母親：1日当たり就労時間

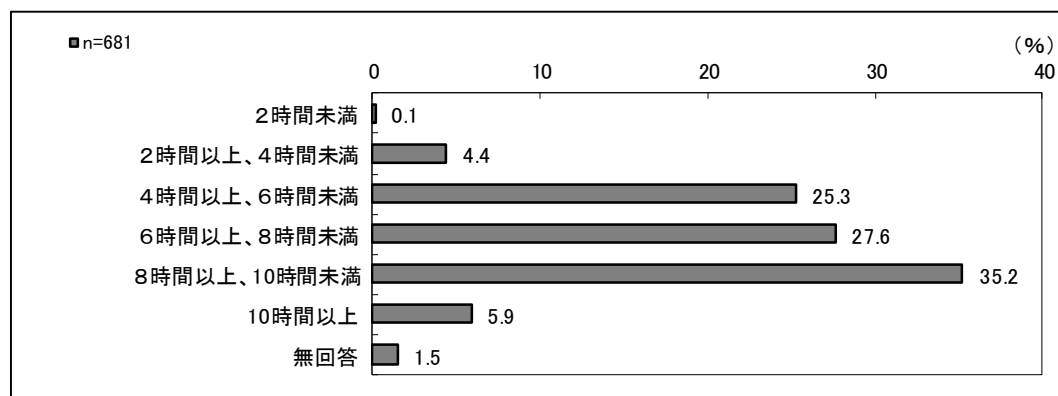


1週当たり就労日数については、「週5日」（60.5％）が過半数を占める。
1日当たり就労時間については、「8時間以上、10時間未満」（35.2％）が最も高く、「6時間以上、8時間未満」（27.6％）、「4時間以上、6時間未満」（25.3％）等がこれに続く。

■母親：1週当たり就労日数■



■母親：1日当たり就労時間■



(3) 母親：フルタイムへの転換希望

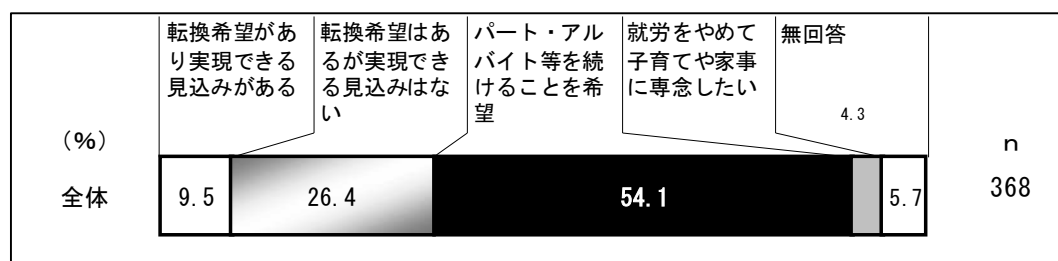
※ 問6で「2」に○をつけた方のみ

問6-2 フルタイム（1週5日程度、1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



回答者の過半数が「パート・アルバイト等続けることを希望」（54.1％）と回答している。
「転換希望はあるが実現できる見込みはない」（26.4％）、「転換希望があり実現できる見込みがある」（9.5％）、「就労をやめて子育てや家事に専念したい」（4.3％）。

■母親：フルタイムへの転換希望■



(4) 母親：就労希望について

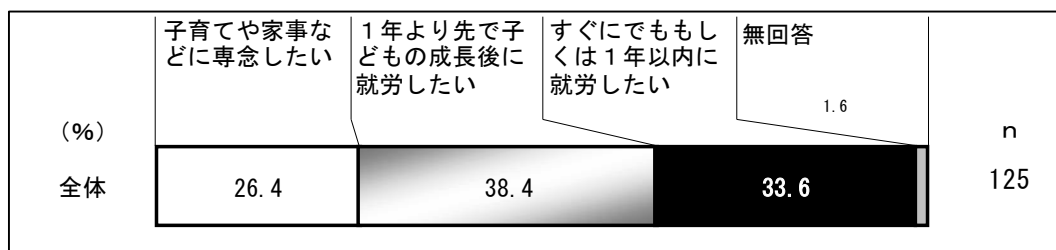
※ 問 6 で「3」に○をつけた方のみ

問 6-3 就労したいという希望はありますか。



「1年より先で子どもの成長後に就労したい」(38.4%)、「すぐにでももしくは1年以内に就労したい」(33.6%)、「子育てや家事などに専念したい」(26.4%)。

■母親：就労希望について■



(5) 母親：就労希望の形態

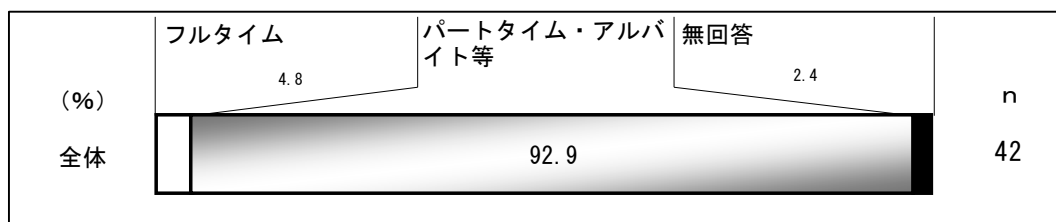
※ 問 6-3 で「3」に○をつけた方のみ

問 6-3-1 希望の就労形態



「パートタイム・アルバイト等」(92.9%)、「フルタイム」(4.8%)。

■母親：就労希望の形態■



(6) 母親：希望する1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問 6-3-1 で「イ」に○をつけた方のみ

問 6-3-2 母親：希望する1週当たり就労日数

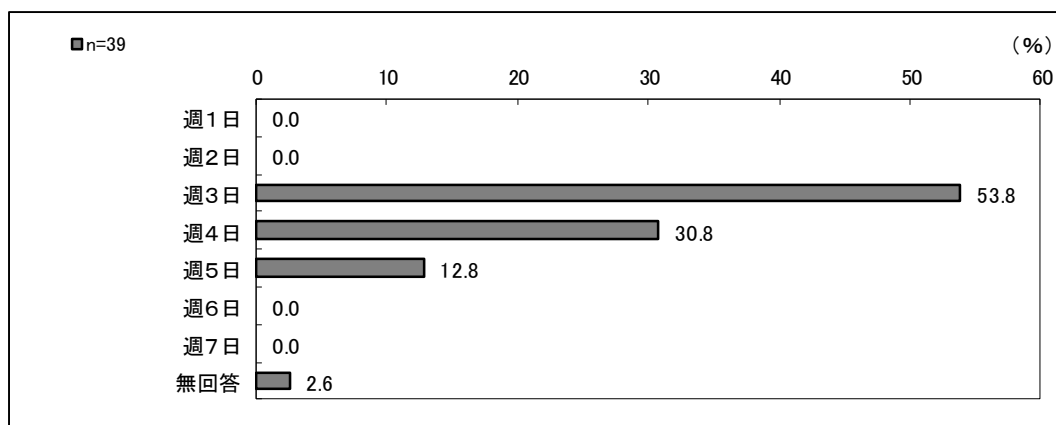
問 6-3-3 母親：希望する1日当たり就労時間



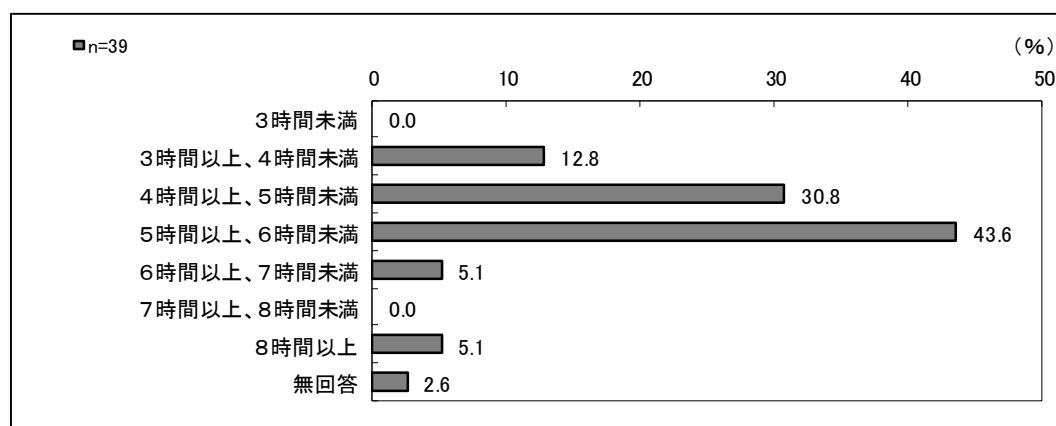
希望する1週当たり就労日数については、「週3日」(53.8%)、「週4日」(30.8%)、「週5日」(12.8%)となっている。

希望する1日当たり就労時間については、「5時間以上、6時間未満」(43.6%)、「4時間以上、5時間未満」(30.8%)、が高い割合を占める。

■母親：希望する1週当たり就労日数■



■母親：希望する1日当たり就労時間■



(7) 父親の就労状況

※ 主に父親の状況について

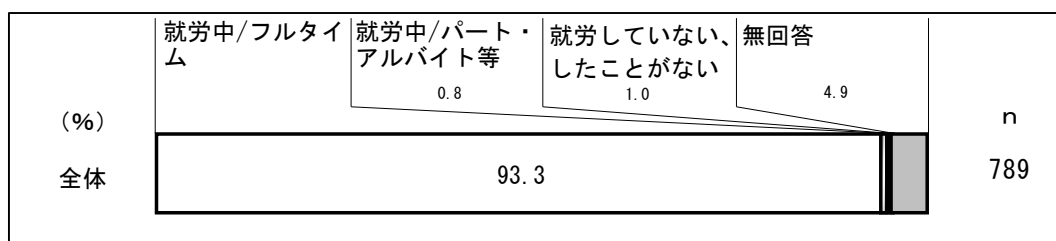
問7 宛名のお子さんの「父親」の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）についてお答えください。



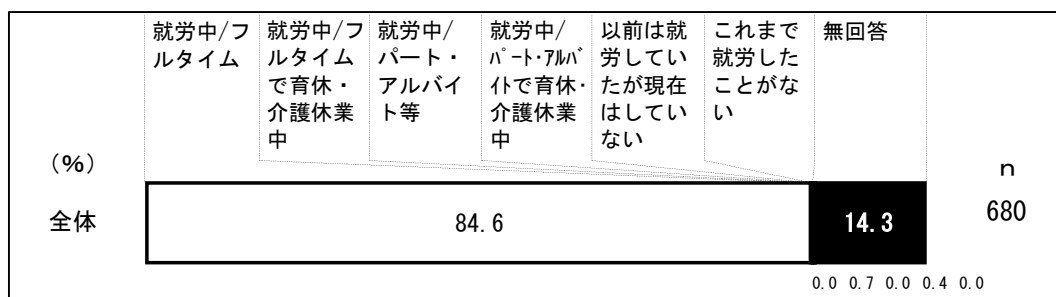
「就労中／フルタイム」(93.3%)、「就労中／パート・アルバイト等」(0.8%)、「就労していない、したことがない」(1.0%)、「就労していない、したことがない」(1.0%)。

前回調査と比較して「就労中／フルタイム」が8.7ポイント増加している。

■父親の就労状況■



■（参考）前回調査の結果■



(8) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問7で「1」または「2」に○をつけた方のみ

問7-1 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 父親：1週当たり就労日数
- ② 父親：1日当たり就労時間

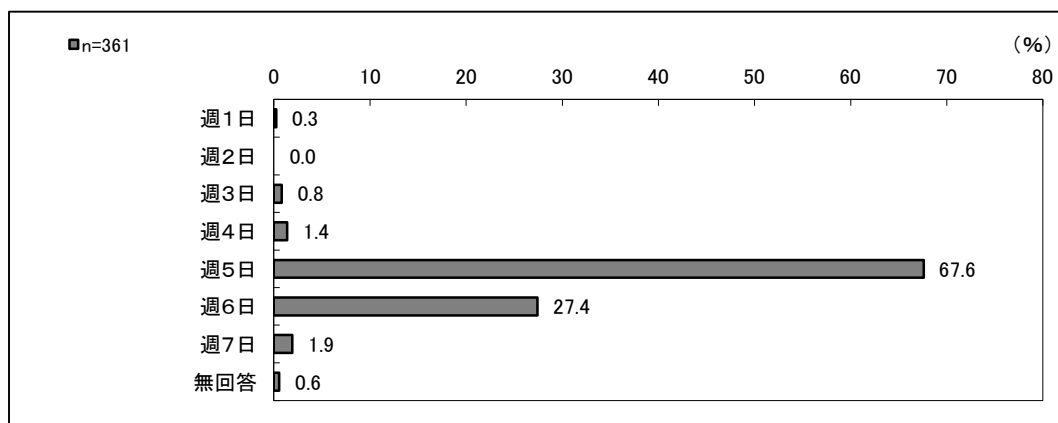


※ 本設問の回答については、web アンケートの設計に誤りがあり、web アンケートの設問が表示されない状態となっていたため、紙のアンケート調査による結果について記載しています。

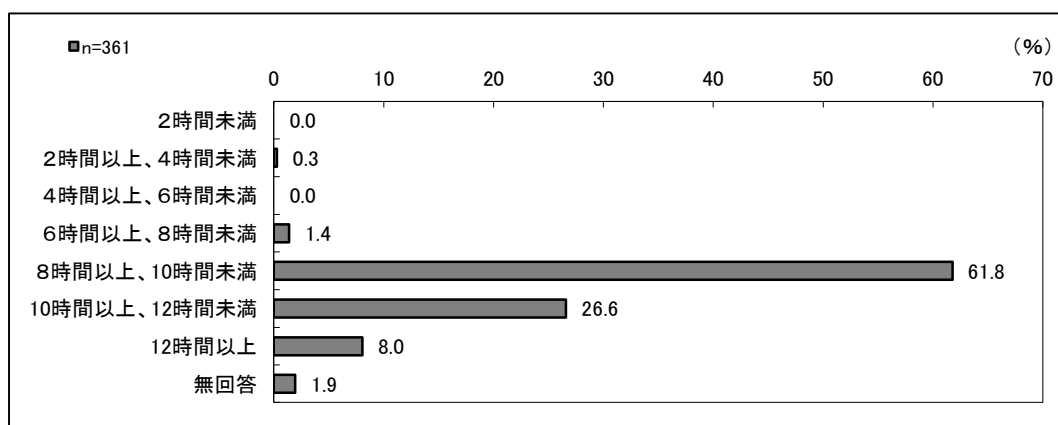
1週当たり就労日数については、「週5日」（67.6%）、「週6日」（27.4%）で回答の大半を占める。

1日当たり就労時間については、「8時間以上、10時間未満」（61.8%）、「10時間以上、12時間未満」（26.6%）、「12時間以上」（8.0%）で回答の大半を占める。

■父親：1週当たり就労日数（紙の調査票による回答結果）■



■父親：1日当たり就労時間（紙の調査票による回答結果）■



(9) 父親：フルタイムへの転換希望

※ 問7で「2」に○をつけた方のみ

問7-2 フルタイム（1週5日程度、1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



回答者数（n数）が6件のため参考値。

「パート・アルバイト等続けることを希望」（50.0%）、「転換希望があり実現できる見込みがある」（16.7%）、「転換希望はあるが実現できる見込みはない」（16.7%）。

■父親：フルタイムへの転換希望■

	転換希望があり実現できる見込みがある	転換希望はあるが実現できる見込みはない	パート・アルバイト等続けることを希望	就労をやめて子育てや家事に専念したい 0.0	無回答	
(%)						
全体	16.7	16.7	50.0		16.7	n 6

(10) 父親：就労希望について

※ 問7で「3」に○をつけた方のみ

問7-3 就労したいという希望はありますか。



回答者数（n数）が8件のため参考値。

「子育てや家事などに専念したい」（37.5%）、「1年より先で子どもの成長後に就労したい」（25.0%）、「すぐにでももしくは1年以内に就労したい」（12.5%）。

■父親：就労希望について■

	子育てや家事などに専念したい	1年より先で子どもの成長後に就労したい	すぐにでももしくは1年以内に就労したい	無回答	
(%)					n
全体	37.5	25.0	12.5	25.0	8

(11) 父親：就労希望の形態

※ 問7で「3」に○をつけた方のみ

問7-3-1 希望の就労形態



回答者数（n数）が1件のため参考値。

■父親：就労希望の形態■

	フルタイム	パートタイム・アルバイト等	無回答	
(%)	0.0		0.0	n
全体	100.0			1

(12) 父親：希望する1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問7-3-1で「イ」に○をつけた方のみ

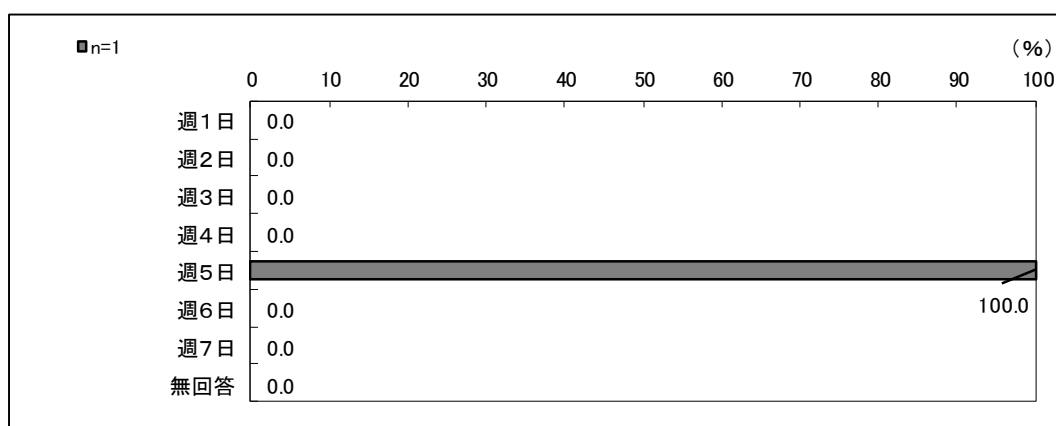
問7-3-2 父親：希望する1週当たり就労日数

問7-3-3 父親：希望する1日当たり就労時間

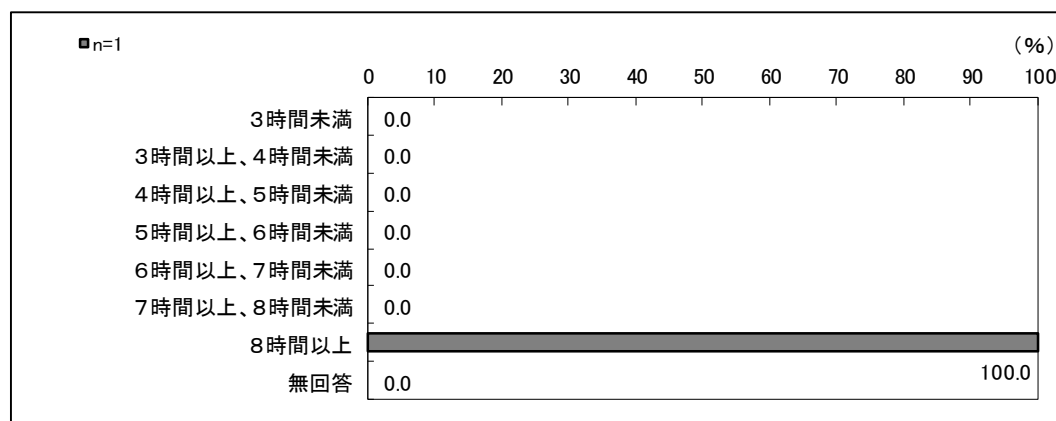


回答者数（n数）が1件のため参考値。

■父親：希望する1週当たり就労日数■



■父親：希望する1日当たり就労時間■



4. 地域の子育て支援事業の認知状況や利用状況について

(1) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向

問8 下記の事業やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

A 認知状況

①保健センターの育児相談・電話相談、②保健センターの両親学級、③保健センターの育児学級、④保健センターの訪問による支援指導、⑤保健センターの乳幼児健康診査、⑥産後ケア事業、⑦ほんじょう健康相談ダイヤル24、⑧小児救急電話相談事業（＃8000）、⑨発達教育支援センター「すきっぷ」、⑩子育て応援アプリ、⑪保育園等の園庭等の開放や教室、⑫子育て支援センター、⑬つどいの広場、⑭児童センター、⑮家庭児童相談室、⑯赤ちゃんの駅、⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード、⑱多子世帯応援ショップ、⑲子育てアドバイザー、⑳家庭教育に関する学級、㉑教育支援センター・教育相談室、㉒放課後子ども教室、㉓ファミリー・サポート・センター、㉔ショートステイ、㉕保育園（幼稚園）での一時預かり事業、㉖病児・病後児保育、㉗ほんじょう助け合いサービス

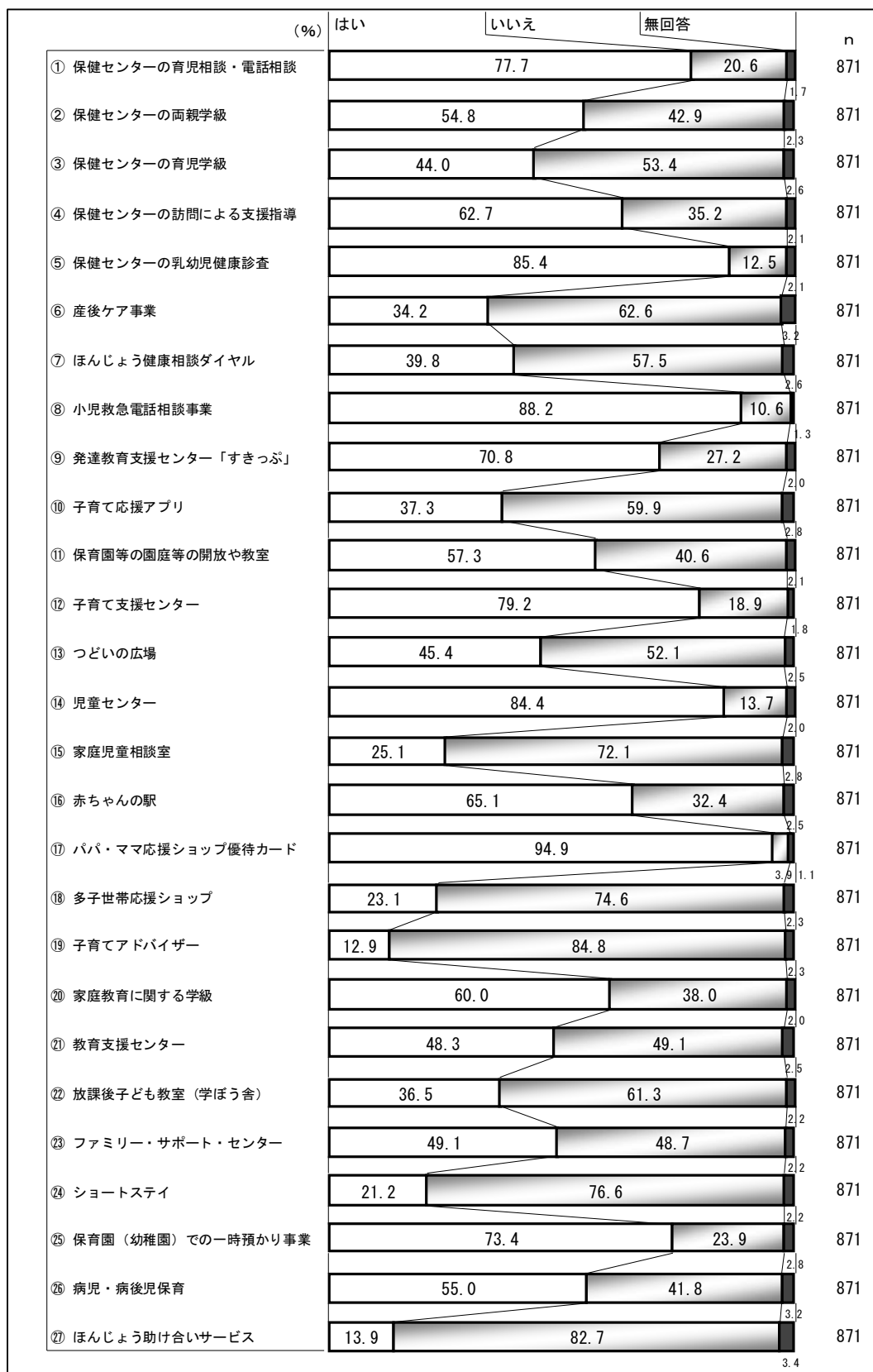


事業やサービスの認知状況については、以下のとおりとなっている。

認知状況が高い割合（上位3位）となったのは「⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード」（94.9%）、「⑧小児救急電話相談事業（＃8000）」（88.2%）、「⑤保健センターの乳幼児健康診査」（85.4%）。

一方、認知状況が低い割合（下位3位）となったのは「⑲子育てアドバイザー」（12.9%）、「㉗ほんじょう助け合いサービス」（13.9%）、「㉔ショートステイ」（21.2%）。

■ A 認知状況 ■



(2) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向

問 8 下記の事業やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

B 利用経験

①保健センターの育児相談・電話相談、②保健センターの両親学級、③保健センターの育児学級、④保健センターの訪問による支援指導、⑤保健センターの乳幼児健康診査、⑥産後ケア事業、⑦ほんじょう健康相談ダイヤル 24、⑧小児救急電話相談事業（＃ 8 0 0 0）、⑨発達教育支援センター「すきっぷ」、⑩子育て応援アプリ、⑪保育園等の園庭等の開放や教室、⑫子育て支援センター、⑬つどいの広場、⑭児童センター、⑮家庭児童相談室、⑯赤ちゃんの駅、⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード、⑱多子世帯応援ショップ、⑲子育てアドバイザー、⑳家庭教育に関する学級、㉑教育支援センター・教育相談室、㉒放課後子ども教室、㉓ファミリー・サポート・センター、㉔ショートステイ、㉕保育園（幼稚園）での一時預かり事業、㉖病児・病後児保育、㉗ほんじょう助け合いサービス

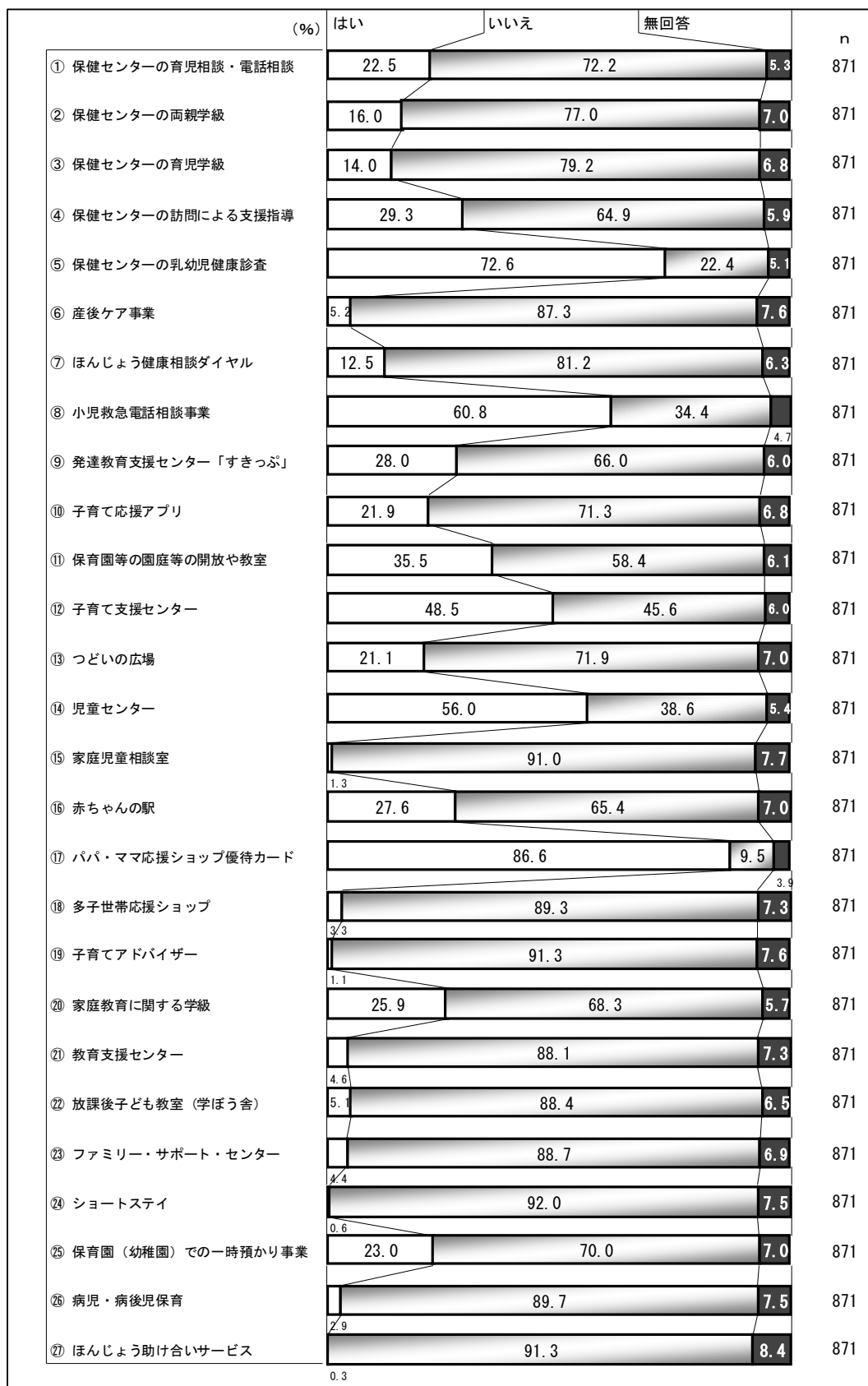


事業やサービスの利用経験については、以下のとおりとなっている。

利用経験が高い割合（上位 3 位）となったのは「⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード」（86.6%）、「⑤保健センターの乳幼児健康診査」（72.6%）、「⑧小児救急電話相談事業（＃ 8 0 0 0）」（60.8%）。

一方、利用経験が低い割合（下位 3 位）となったのは「㉗ほんじょう助け合いサービス」（0.3%）、㉔ショートステイ（0.6%）、「⑲子育てアドバイザー」（1.1%）。

■ B 利用経験 ■



(3) 事業やサービス等の認知状況・利用経験・利用意向

問 8 下記の事業やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

C 利用意向

①保健センターの育児相談・電話相談、②保健センターの両親学級、③保健センターの育児学級、④保健センターの訪問による支援指導、⑤保健センターの乳幼児健康診査、⑥産後ケア事業、⑦ほんじょう健康相談ダイヤル 24、⑧小児救急電話相談事業（＃ 8 0 0 0）、⑨発達教育支援センター「すきっぷ」、⑩子育て応援アプリ、⑪保育園等の園庭等の開放や教室、⑫子育て支援センター、⑬つどいの広場、⑭児童センター、⑮家庭児童相談室、⑯赤ちゃんの駅、⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード、⑱多子世帯応援ショップ、⑲子育てアドバイザー、⑳家庭教育に関する学級、㉑教育支援センター・教育相談室、㉒放課後子ども教室、㉓ファミリー・サポート・センター、㉔ショートステイ、㉕保育園（幼稚園）での一時預かり事業、㉖病児・病後児保育、㉗ほんじょう助け合いサービス



事業やサービスの利用意向については、以下のとおりとなっている。

利用意向が高い割合（上位 3 位）となったのは「⑰パパ・ママ応援ショップ優待カード」（82.3%）、「⑧小児救急電話相談事業（＃ 8 0 0 0）」（73.1%）、「⑩子育て応援アプリ」（47.5%）。

一方、利用意向が低い割合（下位 3 位）となったのは「②保健センターの両親学級」（10.1%）、「③保健センターの育児学級」（10.2%）、「④保健センターの訪問による支援指導」（13.8%）。

■ C 利用意向 ■

(%)	はい	いいえ	無回答	n
① 保健センターの育児相談・電話相談	35.5	56.7	7.8	871
② 保健センターの両親学級	10.1	81.6	8.3	871
③ 保健センターの育児学級	10.2	81.6	8.2	871
④ 保健センターの訪問による支援指導	13.8	78.3	7.9	871
⑤ 保健センターの乳幼児健康診査	27.3	63.7	9.0	871
⑥ 産後ケア事業	14.5	76.3	9.2	871
⑦ ほんじょう健康相談ダイヤル	45.2	47.2	7.6	871
⑧ 小児救急電話相談事業	73.1	19.1	7.8	871
⑨ 発達教育支援センター「すきっぷ」	27.6	63.6	8.8	871
⑩ 子育て応援アプリ	47.5	44.7	7.8	871
⑪ 保育園等の園庭等の開放や教室	21.5	70.1	8.4	871
⑫ 子育て支援センター	26.1	65.4	8.5	871
⑬ つどいの広場	18.8	72.3	8.8	871
⑭ 児童センター	44.8	47.3	7.9	871
⑮ 家庭児童相談室	19.7	71.9	8.4	871
⑯ 赤ちゃんの駅	19.5	71.8	8.7	871
⑰ パパ・ママ応援ショップ優待カード	82.3	9.3	8.4	871
⑱ 多子世帯応援ショップ	27.0	64.5	8.5	871
⑲ 子育てアドバイザー	22.3	69.5	8.3	871
⑳ 家庭教育に関する学級	31.9	60.5	7.6	871
㉑ 教育支援センター	22.5	69.2	8.3	871
㉒ 放課後子ども教室（学ぼう舎）	26.6	65.8	7.6	871
㉓ ファミリー・サポート・センター	24.8	67.5	7.7	871
㉔ ショートステイ	14.5	78.1	7.5	871
㉕ 保育園（幼稚園）での一時預かり事業	18.7	72.2	9.1	871
㉖ 病児・病後児保育	21.2	69.8	9.0	871
㉗ ほんじょう助け合いサービス	16.9	73.1	10.0	871

5. 宿泊を伴う預け先の状況について

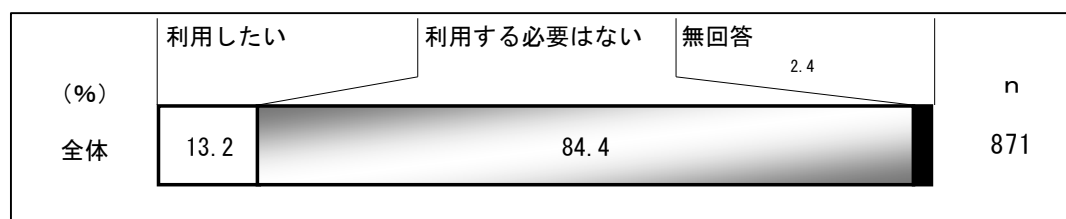
(1) 泊りがけで預けることができる事業の利用意向

問9 宛名のお子さんについて、保護者の用事や都合（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで預けることができるサービス「短期入所生活援助事業（ショートステイ）：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業」を利用したいと思いますか。



「利用する必要はない」（84.4%）、「利用したい」（13.2%）。

■泊りがけで預けることができる事業の利用意向■



(2) 泊りがけで預けることができる事業の利用目的

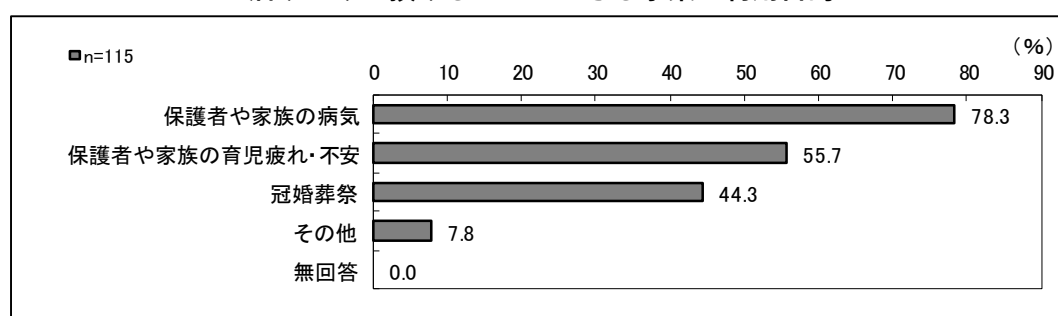
※ 問9で「1. 利用したい」に○をつけた方のみ

問9-1 年間で、何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。

① 希望する利用目的【複数回答】

「保護者や家族の病気」(78.3%)、「保護者や家族の育児疲れ・不安」(55.7%)、「冠婚葬祭」(44.3%)、「その他」(7.8%)。

■泊りがけで預けることができる事業の利用目的■



(3) 1年間で利用したい日数

① 1年間で利用したい日数

1年間で利用したい日数については、以下のとおりとなっている。

■日数（一覧）■

(単位：%)

	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答
1. 冠婚葬祭 (n=51)	82.4	7.8	2.0	0.0	2.0	5.9
2. 保護者や家族の育児疲れ・不安 (n=64)	39.1	25.0	17.2	7.8	3.1	7.8
3. 保護者や家族の病気 (n=90)	43.3	24.4	16.7	2.2	3.3	10.0
4. その他 (n=9)	22.2	22.2	11.1	22.2	0.0	22.2

6. 子どもの病気の際の対応について

(1) 子どもの病気やケガで利用できなかったこと

問 10 この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガで学校を休んだことはありますか。

「あった」(85.3%)、「なかった」(12.9%)。

■子どもの病気やケガで利用できなかったこと■

(%)	あった	なかった	無回答	n
全体	85.3	12.9	1.8	871

(2) この１年間の対処方法

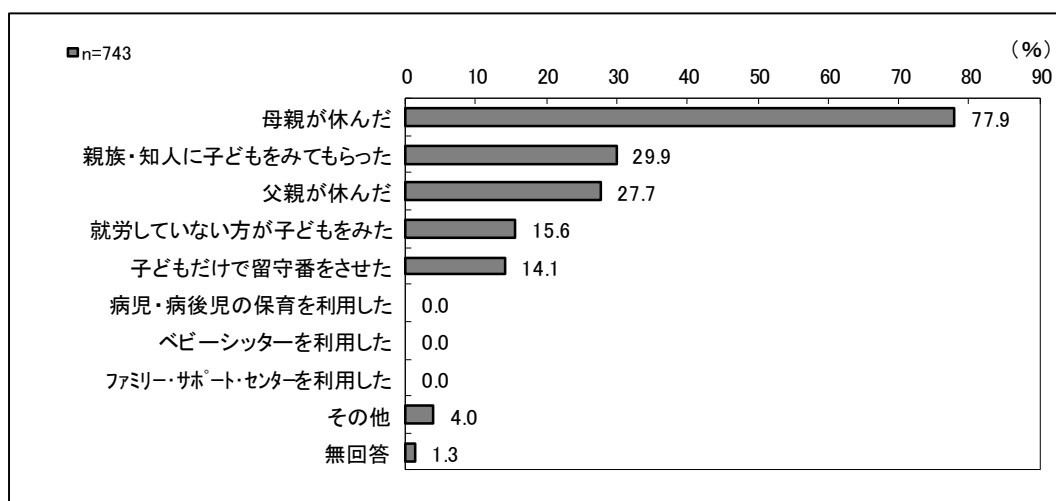
※ 問 10 で「1. あった」と回答した方のみ

問 10-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この１年間に行った対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

① この１年間の対処方法【複数回答】

「母親が休んだ」(77.9%)、「親族・知人に子どもをみてもらった」(29.9%)、「父親が休んだ」(27.7%)、「就労していない方が子どもをみた」(15.6%)、「子どもだけで留守番をさせた」(14.1%)、「その他」(4.0%)。

■この１年間の対処方法■



(3) この1年間の対処方法の日数

② この1年間の対処方法の日数



この1年間の対処方法の日数については、以下のとおりとなっている。

■日数（一覧）■

（単位：％）

	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答
1. 父親が休んだ（n=206）	60.7	23.3	8.7	2.4	0.0	4.9
2. 母親が休んだ（n=579）	23.7	17.4	12.8	6.0	1.9	38.2
3. 親族・知人に子どもをみてもらった（n=222）	45.9	26.1	11.7	2.3	1.8	12.2
4. 就労していない保護者がみた（n=116）	28.4	31.9	19.8	9.5	5.2	5.2
5. 病児・病後児の保育を利用した（n=0）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6. ベビーシッターを利用した（n=0）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. ファミリー・サポート・センターを利用した（n=0）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた（n=105）	68.6	14.3	7.6	1.9	0.0	7.6
9. その他（n=30）	43.3	16.7	16.7	3.3	0.0	20.0

(4) 病児・病後児保育の利用意向

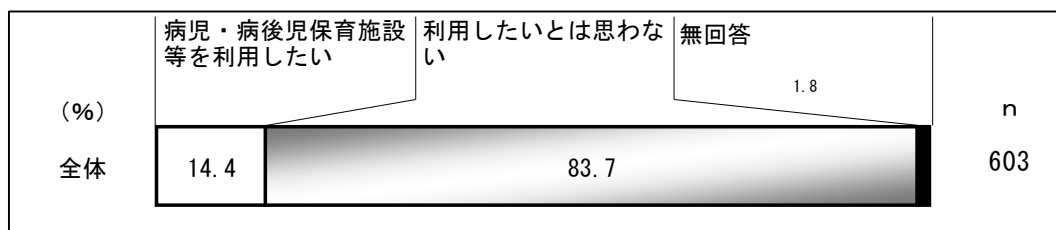
※ 問 10-1 で「1」または「2」のいずれかに○をつけた方のみ

問 10-2 その際、「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。



「病児・病後児保育施設等を利用したい」(14.4%)、「利用したいとは思わない」(83.7%)、

■病児・病後児保育の利用意向■



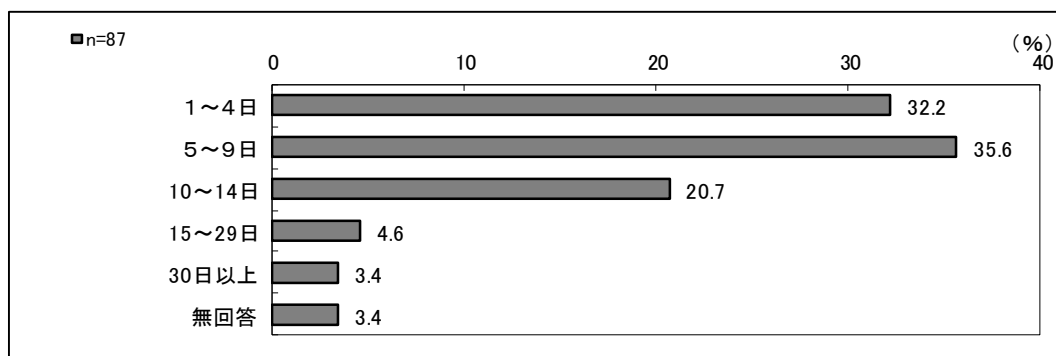
(5) 病児・病後児保育施設等を利用したかった日数／年

問 10-2-1 病児・病後児保育施設等を利用したかった日数／年



「5～9日」(35.6%)、「1～4日」(32.2%)、「10～14日」(20.7%)、「15～29日」(4.6%)、「30日以上」(3.4%)。

■病児・病後児保育施設等を利用したかった日数／年■



7. 放課後の過ごし方について

(1) 希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方

※ お子さんが現在小学校1～3年生の方のみ

問 11 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）の間、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか（過ごさせたい）と思いますか。

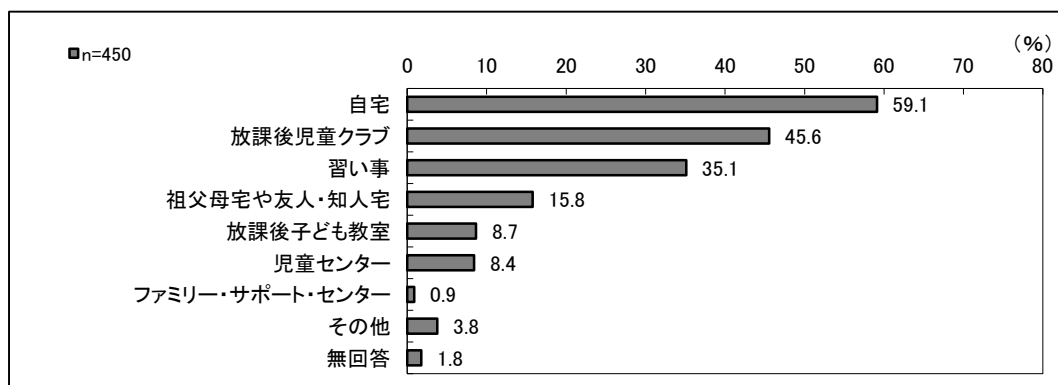
【複数回答】



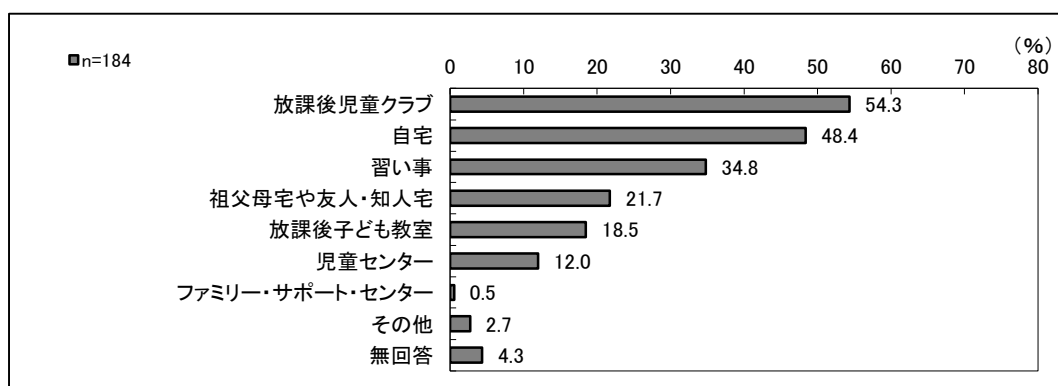
「自宅」(59.1%)、「放課後児童クラブ」(45.6%) が最も高い割合を占め、「習い事」(35.1%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(15.8%) 等がこれに続く。

未就学児童の保護者対象アンケート調査結果と比較すると、全体の回答傾向としては類似した結果となっているものの「自宅」と「放課後児童クラブ」の回答順位が逆転している。

■希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方■



■（参考）未就学児童の保護者対象アンケートの調査結果■



(2) 希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方の日数

① 希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方の日数



希望する小学校低学年の放課後の過ごさせ方の日数については、以下のとおりとなっている。

■希望日数（一覧）■

（単位：％）

	週1日	週2日	週3日	週4日	週5日	無回答
1. 自宅（n=266）	10.2	15.4	14.3	4.9	43.2	12.0
2. 祖父母宅や友人・知人宅（n=71）	40.8	22.5	14.1	4.2	8.5	9.9
3. 習い事（n=158）	34.8	34.2	20.3	3.2	3.2	4.4
4. 児童センター（n=38）	26.3	13.2	15.8	10.5	21.1	13.2
5. 放課後子ども教室（n=39）	38.5	23.1	12.8	2.6	10.3	12.8
6. 放課後児童クラブ（n=205）	2.9	6.3	10.2	9.3	55.1	16.1
7. ファミリー・サポート・センター（n=4）	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
8. その他（n=17）	17.6	23.5	11.8	0.0	17.6	29.4

(3) 希望する小学校高学年の放課後の過ごし方

問 12 宛名のお子さんについて、小学校高学年（４～６年生）の間、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか（過ごさせたいと思いますか）。

【複数回答】

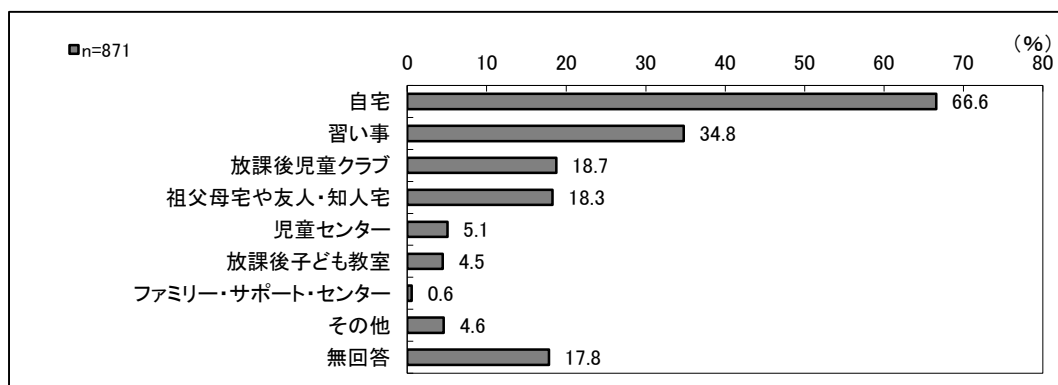


「自宅」（66.6％）が最も高い割合を占める。

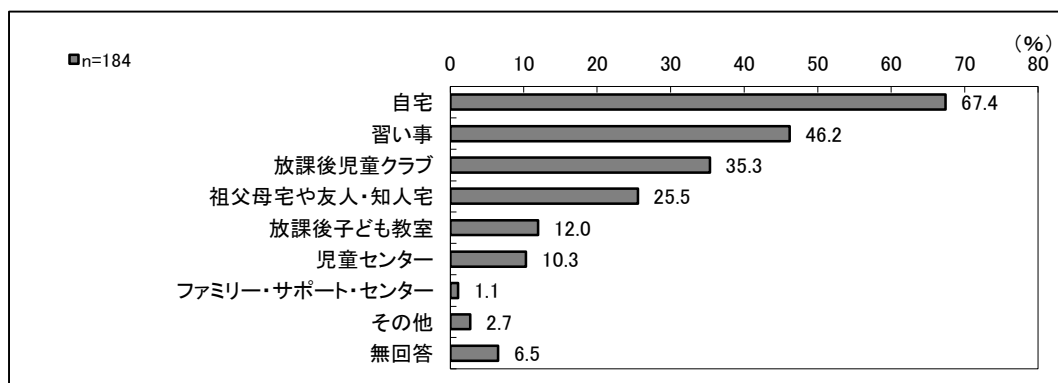
「習い事」（34.8％）、「放課後児童クラブ」（18.7％）、「祖父母宅や友人・知人宅」（18.3％）等がこれに続く。

未就学児童の保護者対象アンケート調査結果と比較して、全体の回答傾向としては類似した結果となっているが、「習い事」、「放課後児童クラブ」を希望する割合は 10 ポイント以上減少している。

■ 希望する小学校高学年の放課後の過ごし方 ■



■（参考）未就学児童の保護者対象アンケートの調査結果■



(4) 希望する小学校高学年の放課後の過ごさせ方の日数

① 希望日数



希望する小学校高学年の放課後の過ごさせ方の日数については、以下のとおりとなっている。

■希望日数（一覧）■

（単位：％）

	週1日	週2日	週3日	週4日	週5日	無回答
1. 自宅（n=580）	6.2	12.4	15.7	6.9	46.6	12.2
2. 祖父母宅や友人・知人宅（n=159）	33.3	28.9	10.1	3.1	12.6	11.9
3. 習い事（n=303）	22.1	39.6	22.4	4.6	5.6	5.6
4. 児童センター（n=44）	25.0	25.0	2.3	6.8	25.0	15.9
5. 放課後子ども教室（n=39）	38.5	30.8	12.8	0.0	7.7	10.3
6. 放課後児童クラブ（n=163）	3.7	12.9	15.3	8.6	39.3	20.2
7. ファミリー・サポート・センター（n=5）	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0
8. その他（n=40）	20.0	22.5	17.5	2.5	25.0	12.5

(5) 放課後児童クラブの利用を希望する理由

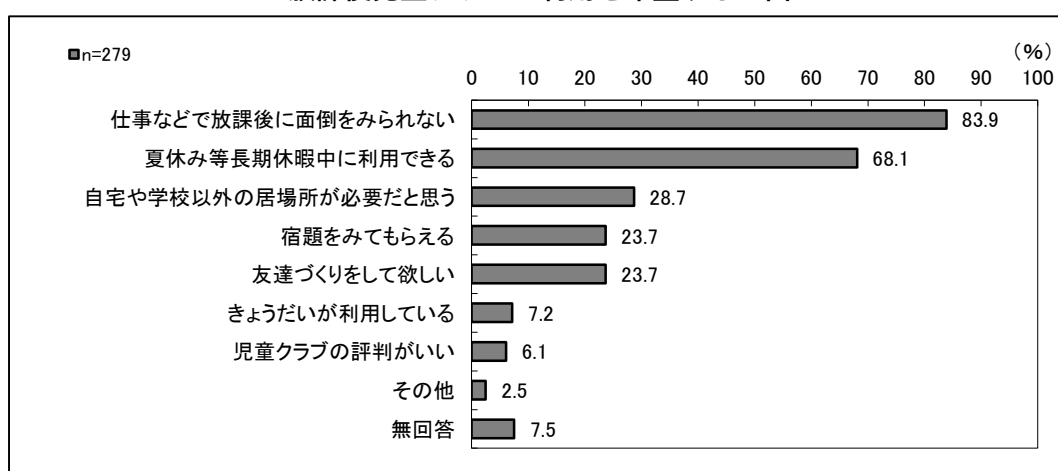
※ 問 11 または問 12 で「6. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方
問 13 放課後児童クラブ（学童保育）の利用を希望する理由は何ですか。【複数回答】



「仕事などで放課後に面倒をみられない」（83.9%）、「夏休み等長期休暇中に利用できる」（68.1%）が高い割合を占める。

「自宅や学校以外の居場所が必要だと思う」（28.7%）、「宿題をみてもらえる」（23.7%）、「友達づくりをして欲しい」（23.7%）等がこれに続く。

■放課後児童クラブの利用を希望する理由■



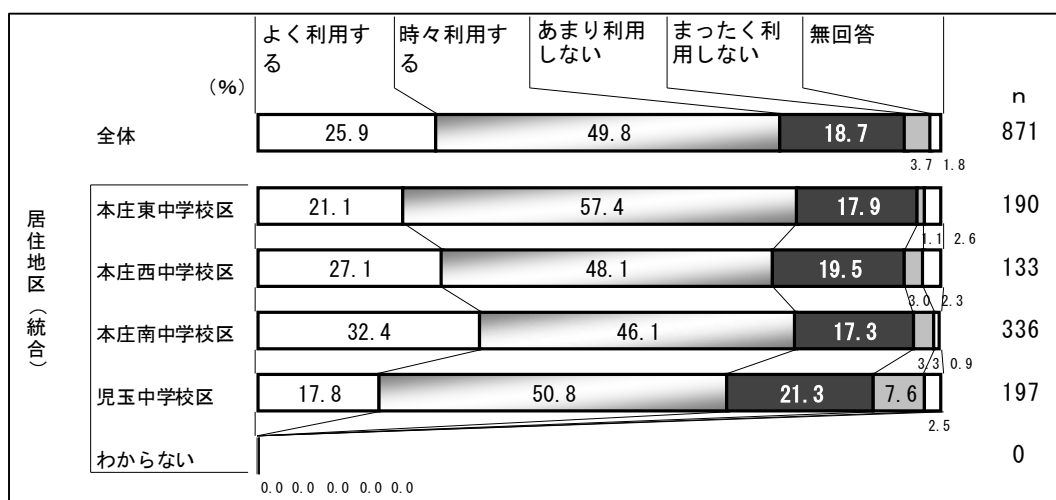
8. 公園の過ごし方について

(1) 公園の利用状況

問 14 お子さんは本庄市内の公園を利用しますか。

「時々利用する」(49.8%)、「よく利用する」(25.9%)、「あまり利用しない」(18.7%)、「まったく利用しない」(3.7%)。

■公園の利用状況■



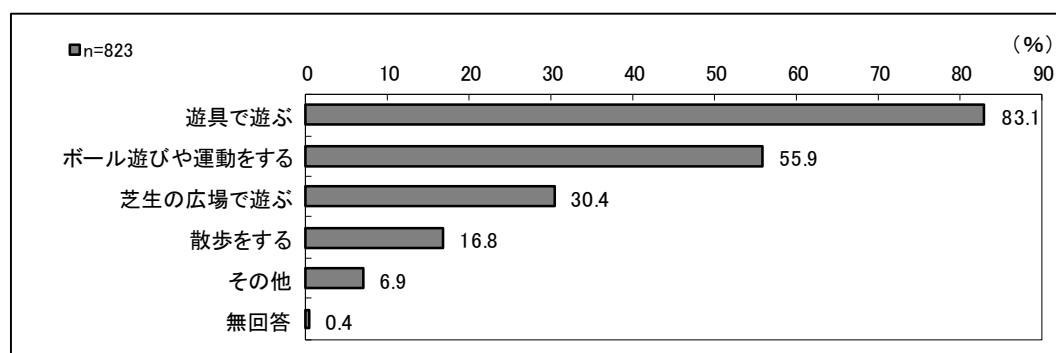
(2) 公園における好きな遊びの種類

※ 問 14 で、「1. よく利用する」、「2. 時々利用する」、「3. あまり利用しない」のいずれかに○をつけた方

問 14-1 お子さんは公園でどのような遊びをするのが好きですか。【複数回答】

「遊具で遊ぶ」(83.1%)、「ボール遊びや運動をする」(55.9%)、「芝生の広場で遊ぶ」(30.4%)、「散歩をする」(16.8%)、「その他」(6.9%)。

■公園における好きな遊びの種類■



(3) 本庄市内の公園に対する満足度

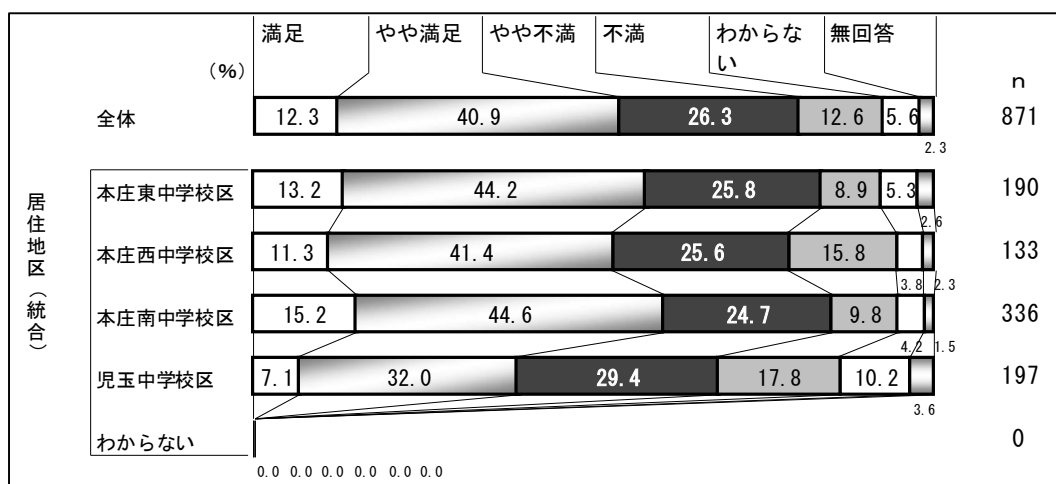
問 15 あなたは、本庄市内の公園に満足していますか。



「やや満足」(40.9%)、「やや不満」(26.3%)、「不満」(12.6%)、「満足」(12.3%)、「わからない」(5.6%)。

児玉中学校区で「満足」と「やや満足」を足し合わせた“満足”が他の中学校区と比べて低い(39.1%)。

■本庄市内の公園に対する満足度■



(4) 不満の理由

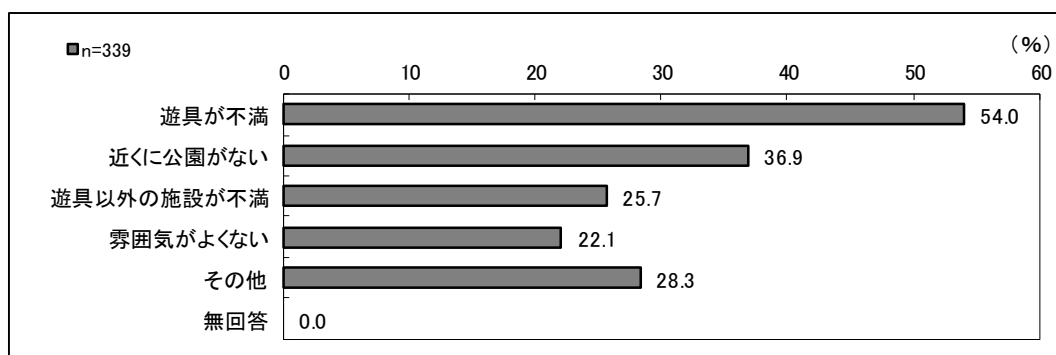
※ 問 15 で、「3. やや不満」または「4. 不満」に○をつけた方
問 15-1 不満の理由は何ですか。【複数回答】



「遊具が不満」(54.0%)、「近くに公園がない」(36.9%)、「遊具以外の施設が不満」(25.7%)、「雰囲気がよくない」(22.1%)、「その他」(28.3%)。

児玉中学校区での不満の理由をみると、他の中学校区の回答結果と比べて「近くに公園がない」(52.7%)が高くなっている。

■不満の理由■



■クロス集計表■

		合計	問15-1 不満の理由						非該当
			遊具が不満	遊具以外の施設が不満	雰囲気がよくない	近くに公園がない	その他	無回答	
全体		339	183	87	75	125	96	0	532
		100.0%	54.0%	25.7%	22.1%	36.9%	28.3%	0.0%	
居住地区（統合）	本庄東中学校区	66	36	25	14	22	20	0	124
		100.0%	54.5%	37.9%	21.2%	33.3%	30.3%	0.0%	
	本庄西中学校区	55	29	13	17	17	17	0	78
		100.0%	52.7%	23.6%	30.9%	30.9%	30.9%	0.0%	
	本庄南中学校区	116	65	34	26	33	33	0	220
		100.0%	56.0%	29.3%	22.4%	28.4%	28.4%	0.0%	
	児玉中学校区	93	50	15	16	49	22	0	104
		100.0%	53.8%	16.1%	17.2%	52.7%	23.7%	0.0%	
	わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

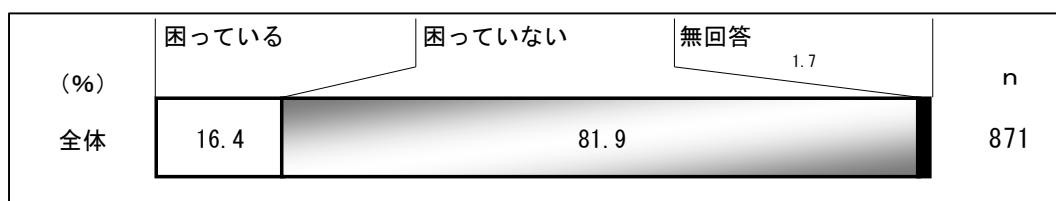
9. 習い事等への児童の送迎について

(1) 送迎のための交通手段で困っているか

問 16 宛名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）や土曜日、日曜日、祝日に、学童保育所や塾、習い事など（以下「習い事等」という。）への送迎について、交通手段で困っていますか。

「困っていない」(81.9%)、「困っている」(16.4%)。

■送迎のための交通手段で困っているか■

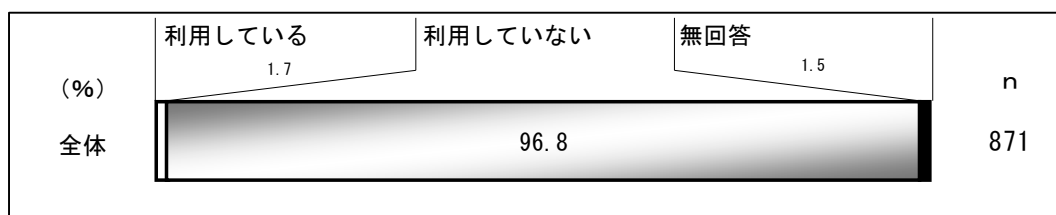


(2) デマンドバスの利用状況

問 17 市では、デマンドバス※（はにぽん号・もといずみ号）を運行していますが、デマンドバスを利用していますか。

「利用していない」(96.8%)、「利用している」(1.7%)。

■デマンドバスの利用状況■



(3) 習い事等の送迎のためのデマンドバスの利用意向

※ 問 17 で「2. 利用していない」に○をつけた方のみ

問 17-1 お子さんの習い事等への送迎に、デマンドバスを利用したいと思いますか。



「利用したいと思わない」(77.7%)、「利用したいと思う」(21.9%)。

■ 習い事等の送迎のためのデマンドバスの利用意向 ■

(%)	利用したいと思う	利用したいと思わない	無回答	n
全体	21.9	77.7	0.4	843

(4) デマンドバスを利用したいと思わない理由

※ 問 17-1 で「2. 利用したいと思わない」に○をつけた方のみ

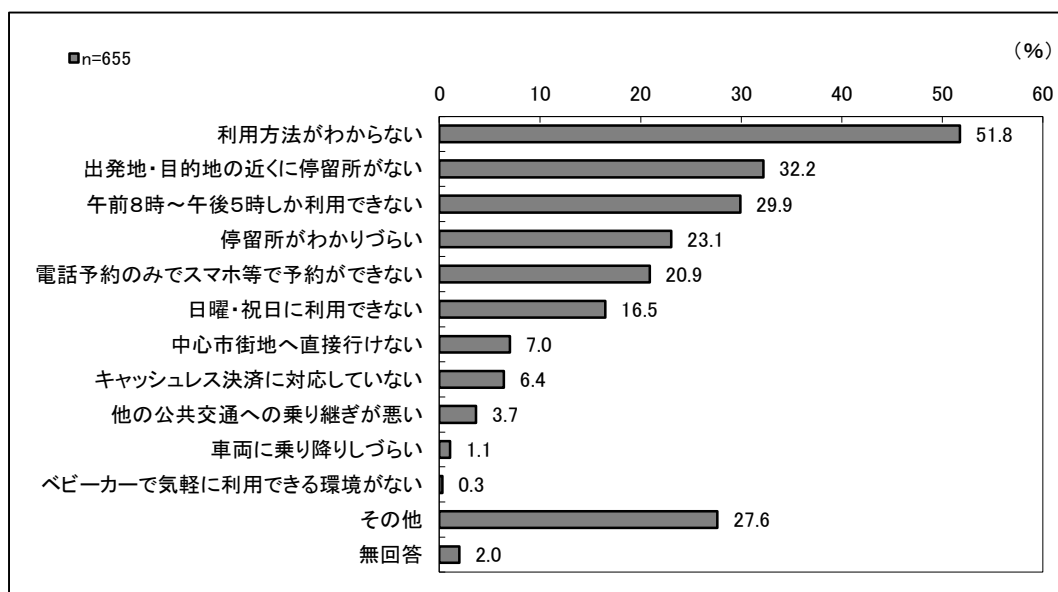
問 17-2 デマンドバス（はにぽん号・もといずみ号）を利用したいと思わない（利用しない）理由を教えてください。【複数回答】



「利用方法がわからない」(51.8%) が過半数を占める。

「出発地・目的地の近くに停留所がない」(32.2%)、「午前8時～午後5時しか利用できない」(29.9%)、「停留所がわかりづらい」(23.1%)、「電話予約のみでスマホ等で予約ができない」(20.9%)、「日曜・祝日に利用できない」(16.5%) 等がこれに続く。

■ デマンドバスを利用したいと思わない理由 ■



10. 子ども・子育て支援全般について

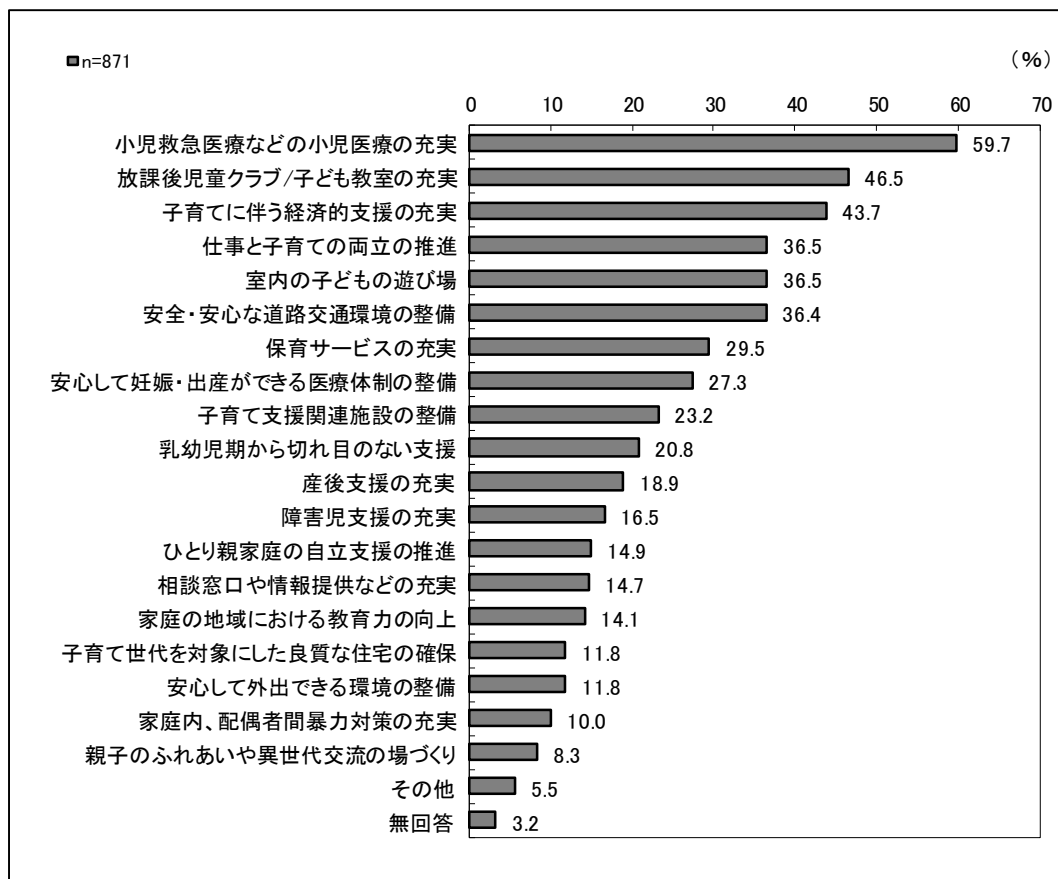
(1) 市が重点的に取り組むべき子育て支援施策

問 18 子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思いますか。【複数回答】

「小児救急医療などの小児医療の充実」(59.7%)が過半数を占める。

「放課後児童クラブ/子ども教室の充実」(46.5%)、「子育てに伴う経済的支援の充実」(43.7%)、「仕事と子育ての両立の推進」(36.5%)、「室内の子どもの遊び場」(36.5%)、「安全・安心な道路交通環境の整備」(36.4%)等がこれに続く。

■市が重点的に取り組むべき子育て支援施策■



(2) 地域における子育て環境や支援への満足度

問 19 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。

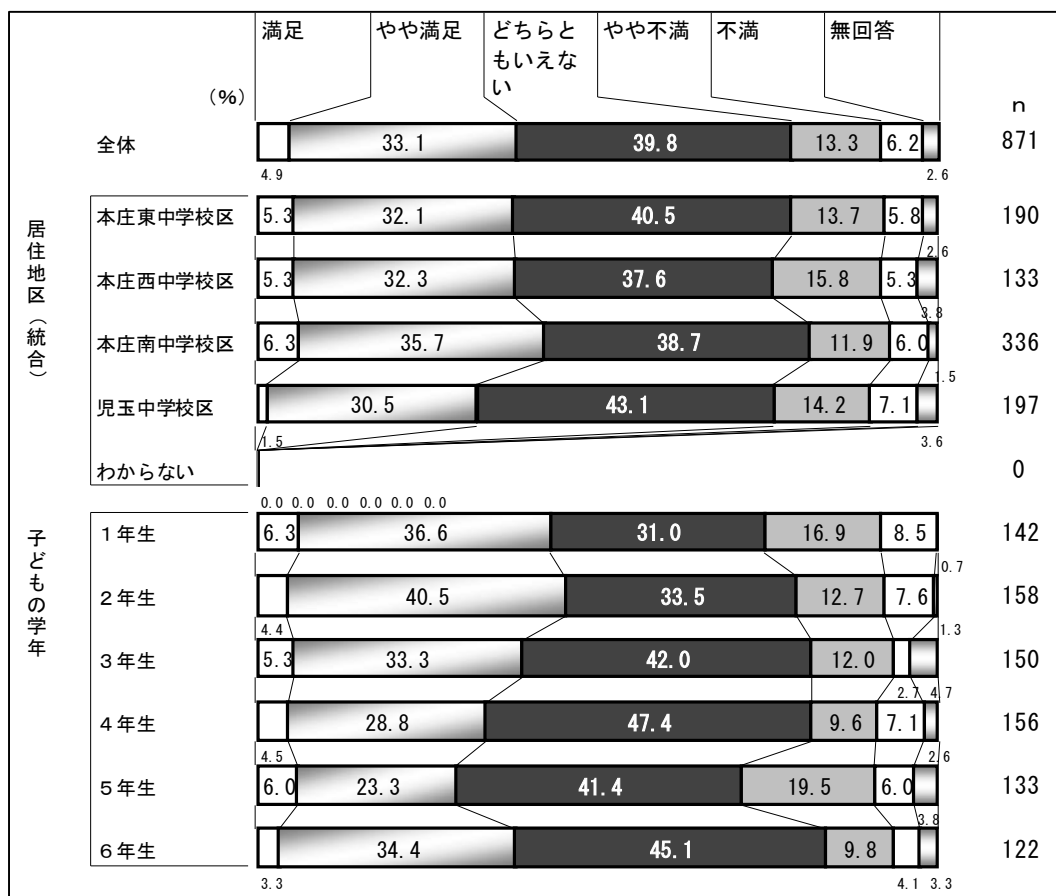
「どちらともいえない」(39.8%)、「やや満足」(33.1%)、「やや不満」(13.3%)、「不満」(6.2%)、「満足」(4.9%)。

全体として、「満足」と「やや満足」を足し合わせた“満足”は 38.0%、「不満」と「やや不満」を足し合わせた“不満”は 19.5%で“満足”が“不満”を 18.5 ポイント上回る。

中学校区別にみると、“満足”の割合が最も高かったのは本庄南中学校区で 42.0%、一方最も低かったのは児玉中学校区で 32.0%となった。

また学年別にみると、“満足”の割合が最も高かったのは 2 年生で 44.9%、一方最も低かったのは 5 年生で 29.3%となった。

■地域における子育て環境や支援への満足度■ (予備)



(3) 自由意見

問 20 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、自由にご記入ください。



以下のような意見が寄せられた。(一部抜粋、原文のまま)

- 本庄市に引っ越して来てから、保育料第3子無料、所得制限なしの子供医療費無料や一時的な学校給食無償化など、県や国より先立ち所得制限なしの子育て支援を受けることが出来、本当にありがたく思っています。
子供が3人居り、3人の子を養うために共働きですが、児童手当は減額され、放課後のデイサービスの利用料も一番高額となり、発達障害の子供がいますが他の家庭のように週に何度も利用するのがためらわれ、利用回数を週一回に抑えています。
- 今この環境で子育てはとても厳しいですし経済的な理由は大きいと思います。保護者達と話をしていても経済的な話しがほとんどです。周りの地域は給食費無償化、臨時給付、出産後育児に必要なベビーカー等のレンタルなど充実してる所の話を見ると本庄市は人数が多いかもしれませんが子育て世代には良くないと思っています。知人は本庄市から出て子育て環境がしっかり整ってる所で生活を決めた方達沢山います。小学校の給食費だけでも無償化になれば家庭の負担もだいぶ減りますしその分子供の教育に費用をあてられます。育児などの相談等も利用した事ありますが電話対応も悪くもう使う事はないです。
- 本庄市からの第3子の出産祝い金ありがとうございました。とても助かりました。またサンキューチケットも活用しました。ありがとうございました。予防接種も年々自費で接種するワクチンが減ってきて、公費の支援をありがたいと感じます。
明石市を参考に子育て支援を充実して下さい。新幹線も通っていますし、まだまだ若い子育て世代が移住してくる可能性はあると思います。高崎市でマンションを買う子育て世代に本庄市の子育て支援制度をアピールすればいいと思います。
高崎市は学童保育料が月15000円程度で年度途中で退会した場合でも、残りの月の保育料を払わなければならない、非常に小学生に対して支援が薄いです。
千葉県松戸市は子育て支援日本一などと言ってアピールしていますが、言ったもん勝ちで、子育て支援の内容は本庄市の方が手厚いのでは？と思います。なので、本庄市はもっと子育て支援日本一であることをアピールした方がいいと思います。そして近隣市町村からたくさんの方が引っ越してきて、税収アップしたらいいと思います。
- 公園の整備、トイレの充実をもっと積極的にやってほしい
- 2024年度より朝、小学校への通学時間を遅らせるように通知がきましたが、現在親の通勤時間がギリギリで子どもが1人で後から家を出ることを心配しています。
- 東小学校の、児童人数に対しての学童の受け入れ場所の少なさに愕然としています。市が広報などに載せている、受け入れ可能学童に問い合わせると、ほとんどがその保育園、幼稚園の卒園生だけ。という対応。致し方なく、市が運営している寿学童に新一年生として入れたものの、次年度も継続して利用継続を希望したら、2年生からは保留という結果。。両親共に17時以降まで就労。各両親も、市内に住んでいるが就労しているため、両親にも

協力してもらい、4 月以降は誰かが早上がりをして、家に帰るようになります。学区内の学童施設の運営が、市が協力的ではなさすぎて、がっかりを通り越して腹立たしいです。西小区域にある、みらい学童さんは東小の児童も利用できると聞いて、利用したいと思い、先日話を聞きに行きました。好感が持てる施設でしたが、平日は送迎がないのでりようできません。ファミサポを利用するには高すぎます。市が学童施設をすぐ増やせないのなら、はにぼん号を学童施設の送迎に利用できたらいいのと思いました。いつもガラガラで利用してる人いるの？と思うくらいのはにぼん号。。そういうところで市が動いてくれたら、いいのと思いました。

出産、産後、赤ちゃん、幼児期に対してはサポートが割と手厚いかな？と満足をしていたが、小学生になった途端に、サポートのなさにより本庄ってこんなもんだし、こういうところだよな。って思う事がほとんどでした。給食費も多子世帯には高い出費です。三人目から無償ですが、一人目から、全員が無料になったら本当に助かると思っています。学童施設の充実、給食費の無償化、全ての親がサポート手厚さを感じられる、子育て支援を望みます。

- 近所に子どもが少ないうえ、みんな学童や習い事などで家にいることがほとんどなく、学童を利用していないうちの子どもは、放課後帰宅するとずっと一人で過ごしています。低学年のうちは自転車で遠くの子と遊ぶこともできません。昔は放課後に校庭や図書室を利用して過ごしていたと思うのですが、今はなぜできないのですか？週に1度や月に一度でもいいので、放課後、校庭や図書室を子ども達のために開放してほしいです。
- 障害児がとても増えていると感じるので支援学校や学級、放課後等デイサービスなどの拡充を希望します。
- グレーゾーンの子供が増えている中、教育のやり方を変えないとまずいと思う。勉強が出来る子、他の子よりも時間はかかるけど出来るようになる子、全くついていけない子。普通のクラスと、特別学級の2つしかなく、時間はかかるけど出来る子のクラスがあればもっと良くなると思う。PTAは昭和から変わってない様にも思う。時代が変わったのに、変わってないところが問題だ。学校の先生の負担も多く、教育は違う角度からも見て変えるべきだと思う。
- 一年生の下校の際、兄姉や近所の高学年に合わせて、学校に留め置きをしてもらえる様、配慮をして頂きたい。一人での下校が心配で、母親が仕事にならない！という声が多数あります。(パートタイムの給料と学童の料金が見合っていないという説あり)。
- 小学校高学年生が夏休みなどの長期休みに利用できる場所がほしい。
- 書類の提出が、土日または18:00以降に出来るようにしてほしいです。ひとり親でフルタイム(8:30-18:00)で働いているのに、8月に提出する書類の提出可能期間が、ひどく協力的でなく、心が痛みました。どんな生活なのか今一度考えて、期間を設定してほしいです。医療費の申請も郵送可能にして下さい。行くことが出来ません！！
- 多子世帯や障害児を抱えている家庭へ、個々のニーズに合ったサポート。必要なところに必要な支援を届けて欲しい。不登校児の親は、子供に生活を合わせなければならないため、働きたくても働けないのが現実。また、欠席はしないが遅刻早退が多かったりしても、その度に仕事をやりくりしなければならない。義務教育後もそれは続きます。様々な事に過

敏で公共交通機関を利用できなければ、親の送り迎えが必要となります。スキップが利用できることで、学校と家庭の連携がとりやすくなったり、何より相談できる場所があるというのが、親にとっても子供にとっても何よりありがたいです。他県や他の自治体の話を聞くと、この様な支援先が無いところも多く見られます。ただ、スキップは中学卒業までなので、空白になってしまう高校進学後も繋がりを持っていられたら、切れ目の無い支援が出来るのではないかと思います。

- 先生方の環境をもっと考えてほしい。
民業企業の賃金など改善がつづくなか、なり手確保は急務と思う。これについては、公務員についても同様
- ひとり親環境を理由にすることは避けたいですが、金銭面の余裕が無い為、教育格差を痛感します。勉強（学校授業）のスピードも早い為、流行り病に罹ると出席停止になり、その分置いていかれ本人が担任に聞いても不十分。フォロー先があると親としては安心です。ワンオペの為、私自身の負担もあり、子供に声を荒げ自己嫌悪に陥ることもあるので、子供はもちろん、親のフォローも必要かと思います。相談先があり、実行しても他人事という感じで親身になってもらえず、二度と相談しない、と思った場面もありました。
- 本庄子育てサポートをこんな事でこまった時はここへみたいなかんじでわかりやすく1つにまとめた物があると便利で安心、助かると思いました。もう少し自分でも市で利用できるものがあったら上手に利用していきたいと思いました。
- 生活困窮世帯の幅が狭すぎる。ボーダーライン前後にいる人が1番生活が苦しいのではないかと思います。子どもが格差ができないように手当を充実させてたり、最低でも学校で必要となる物品ぐらいは無償で提供して欲しい。
- 子供の予防接種などもまだ公費でないものがあり、そういったものを無料で受けることが出来るように支援していただきたいです。季節性の予防接種も助成金などが出るとありがたいです。大学まで所得など関係なく無償化になることを希望します。
- 公園の整備・管理。不登校の子どもの居場所作り、先生の確保を是非お願いしたいです。子どもの将来がかかっていますので、そこに、予算を作るべきだと思います。
- 学生の通学路の安全、縁石はあるがガードレールはない地域がある。
昨今、夏場の熱中症対策をあの手この手で行っていますが、リモート授業が出来るようになったので、翌日に真夏日と予想される日などは翌日リモートで行うとか、半日で終りにして午後はリモート授業を3時間にして授業日数を確保とかは面倒なのでしょうか。
- 高校卒業まで医療費の無料化が実施されるようですが、医療機関を頻繁に利用している家庭はとても助かる制度で、かからない子どももいます。そういった子どもに「元気でよかったね」といったサービス、お祝い金が出るとうれしいです。
- 徒歩圏内に何も無い。車がないと不便。はにぼん号も予約なしで乗れたら利用客が増えると思う。
- 近隣の市町村と同じ様に給食費の支援を続けてほしいです。今年度で終了となると生活に大きく影響をし、今後の学費などお金がかかるのでとても不安です。